

第3回千葉市発達障害者支援連絡協議会 議事録

1 日 時 平成22年2月5日(金) 10:00～12:00

2 開催場所 千葉市議会棟3階 第3委員会室

3 出席者

- (委 員) 杉田委員(座長)、阿部委員、久保田委員、中田委員、夏目委員、
野口委員、三橋委員、山科委員、鈴木(信)委員、鈴木(正)委員、日色委員、
高井良委員、山田委員、岡田委員、五藤委員、加瀬委員、神津委員、
計17名
- (事務局) 障害者自立支援課：鈴木課長補佐、岡本主事、丸木主事
発達障害者支援センター：加瀬支援員、谷口支援員、仲村支援員
- (オブザーバー) 千葉市桜木園：柿沼園長

4 議 題

- (1) 千葉市発達障害者支援センターの実施状況について
- (2) ライフサポートファイル～わたしの記録～(案)
- (3) その他

5 議事の概要

- (1) 千葉市発達障害者支援センターの実施状況について
発達障害者支援センターの実施状況について、事務局及びセンター支援員から説明し、質疑応答が行われた。
- (2) ライフサポートファイル～わたしの記録～(案)
ライフサポートファイルの案について、事務局より説明し、内容について協議された。委員からの意見を踏まえ、内容をさらに修正し、各委員に示すこととされた。
- (3) その他
事務局より、議事録の確定方法について説明し、出席委員多数の賛同により、承認を得た。

6 会議経過 別紙のとおり

(別紙) 第3回千葉市発達障害者支援連絡協議会 会議経過

○ 事務局（岡本主事）

開会、資料確認

○ 鈴木障害者自立支援課課長補佐

障害者自立支援課 課長補佐の鈴木でございます。本日は、課長の大木が所用により出席できずに申し訳ございません。課長に代わりまして、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、ご多忙のところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆様方におかれましては、日頃より本市障害福祉行政各般にわたり、ご理解・ご協力をいただいております、重ねて御礼申し上げます。

この連絡協議会は、発達障害者に対する総合的なサービスの在り方や、関係機関の連携体制の確立、また、関係機関が抱える諸問題への対応を、専門的に協議・検討するための場として、設置されるものでございます。

本市におきましては、この連絡協議会を平成20年7月に設置し、本日で3回目の開催を迎えたところです。前回の連絡協議会で作成されることとされたサポートファイルにつきましては、事前に、委員の皆様方から貴重なご意見を多数いただいたところであり、本日は、そのご意見を反映させたものをご確認いただきますので、よろしくお願い申し上げます。

また、自閉症等の発達障害のある方や、その家族などに対する支援を総合的に実施する、地域の拠点でございます「千葉市発達障害者支援センター」については、設置から2年が経過したところであり、各関係機関とのネットワークの強化が着実に図られており、支援の芽は着実に成長しているものと認識しております。

この間、国においては、昨年8月末に、衆議院総選挙の結果、民主党を中心とした連立政権が誕生しました。新政権においては、昨年9月、障害者自立支援法の廃止が合意され、発達障害等のある方のサービス受給が困難な現行の法体系から、「制度の谷間」がない、総合的な制度の創設が明言されたところでございます。

委員の皆様方におかれましては、発達障害の支援の在り方に関して、それぞれのご専門分野から多様なご意見を賜り、この発達障害者支援連絡協議会が、地域全体の発達障害者への支援力を高める場となるよう、今後ともご支援・ご協力賜りますことをお願い申し上げます、甚だ簡単ではございますが挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○ 事務局（岡本主事）

本協議会の議事録は、千葉市情報公開条例等の規定により、公開及び公表することとされておりますので、あらかじめご承知願います。なお、個別ケース等について協議を行う場合は、個人情報保護の観点から、非公開とさせていただきますので、これについてもあらかじめご了承くださいませよう、重ねてお願いいたします。また、大変恐縮ではございますが、会場の都合上、マイクが使用できないので、ご発言の際には、なるべく大きな声でお願いいたします。それでは、ただ今から議事に入らせていただきます。杉田座長、議事の進行をお願いいたします。

○ 杉田座長

それでは、次第の3の議題にはいらさせていただきます。まず、(1) 千葉市発達障害者支援センターの実施状況報告です。今回は、まず事務局から事業全体の傾向を報告していただきます。その後に、センターの支援員から、特に付け加えておきたいことや、所見などをご報告いただきたいと思います。それでは、まず、事務局より報告願います。

○ 事務局（岡本主事）

資料1の説明

○ 杉田座長

引き続き、発達障害者支援センターから報告願います。

○ 発達障害者支援センター（加瀬支援員）

発達障害者支援センター、就労支援員の加瀬と申します。

事務局からの報告に付け加えますと、厚労省からの指示により、個別支援の集計方法が変更されております。就労支援や発達支援についても、初期相談については、すべて相談支援で計上するようになったため、件数の変動が著しくなっております。

一人あたりの支援件数に増加が見られ、平成20年1月に開設以来、3年度にわたって継続しているケースもあります。また、他の関係機関と連携して対応するようなケースも増加しております。

就労支援については、8名が新規就労、これはアルバイトを含みます、6名が千葉障害者職業センターやキャリアセンターなどの関係機関へつなぎ、就労のための準備中です。

○ 夏目委員

保護者から聞いた話で、知的障害者の施設である「でい・さくさべ」を利用する自閉症児について、12月に不安定になり、かみつきの攻撃的になった時期がありました。発達障害者支援センターに相談しましたが、訪問に来たのは1月になってからで、児童も既になんともなく収まってしまっていました。限られたスタッフの中で対応しているのは良く分かりますが、大変残念なことです。

○ 中田委員

もちろん早めに伺うつもりでしたが、もしかしたら話に食い違いがあったかもしれません。このケースでは、現場職員で対応可能との話であったため、そのようにしたところです。その後、様子を見るために、1月に訪問しました。

○ 夏目委員

了解しました。食い違いかもしれません。ありがとうございました。

○ 杉田座長

ほかにご質問はございますか。

○ 鈴木(正)委員

資料 2 について、自閉症の診断方法に違和感を感じます。自閉症とは、このような分類ができるものではないのでは。

○ 発達障害者支援センター（加瀬支援員）

診断名の計上方法については、平成 21 年度に国から指示があり、自閉症の確定診断があった場合のみを自閉症としてカウントしています。報告の様式についても、全国統一でこの様式を使用しています。

○ 杉田座長

これについては、前回の協議会でも私からお話したところですが、国からの指示であれば仕方ないでしょう。医学的にはどうかと思いますが。

ほかにご質問はございますか。なければ、今日の議題のメインである、議題（2）のライフサポートファイルのほうに移りたいと思います。これについては、しっかり議論をしたいと思いますので、これまでの経緯を含めて、事務局からご説明願います。

○ 事務局（岡本主事）

資料 3 と資料 4 を併せて説明。

○ 杉田座長

ありがとうございました。かなり盛りだくさんですね。これについて、何かご意見やご質問等ございますか。

○ 久保田委員

まず、考え方の確認をさせていただきたいと思います。

保護者が記入する部分が多いものは「サポートブック」です。関係機関の方たちが記入したり、関係機関が所有する資料を差し込んでいくものが「サポートファイル」です。富里市などが作成するサポートファイルは、保護者が記入するような欄はほとんどなく、保護者はよく分からないけど、とりあえずこれをもっていけば、関係者の方が何とかしてくれる、というものになっています。

今回ご提示いただいたサポートファイルの形式だと、どうしても保護者が記入する部分が多いので、保護者が主体となり、負担が過大となってしまうことが懸念されると思います。

また、15 ページの部分は、相談や引継ぎの記録の部分ですが、内部資料の提供の依頼について、表現がへりくだった感じがするので、「資料を添付してください」等、明確に書いてしまったほうが良いと思います。また、保護者には内部資料の名称が分からないので、個別支援計画等、資料名を明確にしてもらおうと良いと思います。

特に、学校での個別支援計画については、学校に直接交渉しても、提示してもらえない場合があります。養護教育センターを経由して、ようやく開示してもらった経験もあります。

○ 三橋委員

個別支援計画については、原則、保護者にその写しを開示しているはずですが、ただ、現場の先生の入れ替わりも激しいのが現実で、現状としては約 50%が若手の先生です。このため、保護者の方への適切な対応が徹底されていないことがあるのかもしれませんが。

○ 杉田座長

サポートファイルの目的は、関係者の情報共有を徹底することです。そのためには、情報が多ければ多いほど良い。その観点からは、記入する大変さはあるけれども、保護者の方にも、ご協力をお願いしたいと考えています。

以前もお話しましたが、サポートファイルは、母子手帳の一生版というイメージで捉えてはいかがでしょうか。そのためには、やはり情報が多いほうが良い。特に、医療機関としてはそう思います。

それと、医療機関が記入する書類は、その種類が多種多様なので、書式一式をリストアップするのも良いと思います。

○ 夏目委員

でい・さくさべでは、保護者の方に、必ず個別支援計画を渡すことにしています。

サポートファイルは、意見出しの依頼があったときに、育成会の会員に記入をお願いしましたが、皆さん口を揃えて「とにかく書くのが大変」とのことでした。修正がされて、だいぶ負担が軽減されたのはたしかですが、それでもボリュームがあります。

できれば、多くの方に活用してもらいたいものではあると思いますが、事務局では、どのように普及させようとしていますか。

○ 事務局（岡本）

情報の更新を随時していただくことになるため、印刷して冊子にするにはなじまないことから、千葉市のホームページに電子データをアップし、ダウンロードして使用してもらう予定です。ワードファイルで提供する予定ですので、ワード上で入力しても良いですし、印刷したものに手書きで記入しても良いと思います。また、関係各課に対しても、情報提供はさせていただきます。

○ 鈴木(信)委員

いろいろな方のご意見を踏まえると、どうしても分厚いものになってしまいます。なるべく早めにホームページにアップして、皆さんに活用してもらいながら、必要に応じて取捨選択をして改訂し、より良いものにしていく方法もあると思います。

○ 杉田座長

試行しながら改訂していく考え方もあると思いますが、今日は、協議会としての意見を、ある程度まとめたいと思います。

○ 阿部委員

自閉症協会としては、保護者は障害の受容ができているし、こういった書類は書き慣れているので、あまり大変さは感じないと思います。ただ、発達障害は、年齢層の縦の幅と、障害特性の横の幅の両方が広いことに注意が必要で、特に第Ⅲ章の部分は、記入は任意なので、あてはまる部分だけ記入していけば良いと思います。

○ 杉田座長

保護者も、お子さんの情報を整理する必要があるでしょうね。とにかく情報の共有化が必要ですから。

○ 久保田委員

親の会に入会している保護者は、受容ができているので、記入することは大丈夫だと思います。でも、加入していない、受容に達していない保護者の方にとっては、分厚いファイルにはかなりの抵抗感があります。少なくとも、気づきの段階にある保護者の方たちは、敬遠してしまうと思います。また、保護者の方たちを安心させるために、サポート機関の一覧表のようなものも必要かと思います。

加えて、お試し期間は必要だと思います。

○ 野口委員

保育園では、発達障害について、3歳未満での気づきのケースが増加しています。このサポートファイルでは、電子データでも量が多くて、とっつきにくいので、趣旨の説明も必要かと思います。また、記入にあたって、一定のサポート体制も必要で、その役割は、発達障害者支援センターが担うものと思います。また、サポートする機関の一覧表もあると良いと思います。

○ 事務局（鈴木課長補佐）

サポートファイルは作成することが目的ではなく、どのように普及させるかが重要だと考えています。そのためには、このライフサポートファイルの使用方法的アドバイスや、発達障害児者を取り巻く関係機関への協力体制もしっかりする必要があると思います。

○ 杉田座長

このライフサポートファイルはあくまでも適切な支援をするうえでの手段の一つなので、教育機関にも是非使ってもらいたいと考えています。ですから、保護者も頑張って協力してほしい。とにかく情報の共有が必要です。

○ 三橋委員

このサポートファイルの意味づけを、ファイルの中で書いてしまってはどうでしょうか。教育現場では、発達の遅れが疑われたり、明らかに発達障害が見られる場合であっても、少なくとも小学校6年生くらいまでは、保護者の方は「期待」をしています。発達障害者支援センターや、各学校にもサポートファイルを常備して、特に教育機関に対して普及啓発をしっかりとやるべきだと思います。また、相談機関や関係機関の一覧表や、受けられるサポートの一覧表もあると良いと思います。

なお、普通学級で高校まで通い、発達障害が原因でドロップアウトして、ニートや引きこもりになるケースが増加しているのが現実です。いわゆる教育困難校に在学する生徒の多くが、発達障害者支援を必要とすると思われる人で、それも100名規模で対応が必要です。こういったケースは、そのほとんどが親や本人が障害を受容できていない状況にあると思います。

○ 杉田座長

せっかくなので、柿沼先生、サポートファイルのことで何かご意見ありますか。

○ 柿沼園長

発達障害者支援で一番大切なのは、家族をまきこむシステムです。そういったことを話したいのが本音です。幼稚園には、20～30%、多い場合には50%が何らかの支援を必要としていると考えられています。そのうちで発達障害は5～6%でしょう。しかし、そういったケースの把握ができていないため、早期発見・早期療育の経過が見えない。学校での早期の親子の状態が不明であることがよくない。支援のタイミングとその経過が見えないので、こういったことも取り組みたい。早期発見して、学齢期までに親を取り込んでサポートしていく。そのためには、サポートファイルは必要です。ちなみに自閉症は、世界では約1%と言われているところ、日本では2%はいると言われている。世界に比べて日本は多いわけです。

ファイルについては、これで良いと思います。必要で十分な情報が盛り込まれていると思いますので、あとは利用者がチョイスして使えば良い。あとはこの理解が必要だと思います。

○ 杉田座長

教育機関として、養護教育センターの加瀬委員はいかがですか。

○ 加瀬委員

相談に来る人たちを見ていて思うことは、親が一生懸命悩んだ末、言い方は悪いかもしれませんが、保護者の方が腹をくくる必要はどうしてもあるんだと思います。

個別支援計画は、先生個人で策定することもあれば、学校全体として作ることもあり、統一はされていません。内容について、納得していない保護者の方もいるようです。そういったケースがある場合に、理解があれば生きてくるのがこのファイルだと思います。養護教育センターとしては、このファイルは良いと思います。

○ 杉田座長

ありがとうございます。ほかに何かありますか。

○ 神津委員

保護者の方への記入の抵抗感を緩和する観点から、お子さんのことを記入する「わたしのこと」を第Ⅲ章に、つまり後ろに移動させたようですが、よくよく見てみると、フェイスシートのすぐ後ろ、つまり第Ⅱ章部分にもってきたほうが、障害の受容ができていない方にとっても書き易いのではないかと思います。それぞれの項目は多いですが、4段階のチェック項目はあるわけで、これをチェックすること自体は、それほど負担にはならないのではないのでしょうか。

また、支援する側にとっても、第Ⅲ章部分が前にあったほうが、本人の特徴を把握しやすいですし、それを理解することが、親や関係者にとって大切なことだと思います。受容ができていない保護者にとっても、ご自身のお子さんの特徴をまず理解してもらうために、フェイスシート部分だけを利用させても良いと思います。より多くの人に、このファイルを使ってもらうことと、支援を受けやすくするためには、第Ⅲ章部分を前にもってきたほうが良いと思います。

○ 柿沼園長

構成については、ホームページへの掲載方法を工夫することでカバーできるのでは。つまり章建てではなくて、ホームページ上で並列させて、チョイスして利用するようなイメージです。

○ 神津委員

ホームページを利用できない方も多いと思います。

○ 久保田委員

冒頭から申し上げていますが、そもそも国が想定しているサポートファイルは、あくまでも関係機関の書類をファイルしていくものなので、この案のままで良いと思います。そのほうが保護者の負担が軽減されます。第Ⅲ章部分がクローズアップされた場合、それはサポートブックになります。

○ 杉田座長

保護者と支援者という立場の違いで、やはり意見の相違はあるかと思いますが、サポートファイルは双方向のコミュニケーションツールなので、親御さんからの情報提供も必要だと思われます。

○ 事務局（岡本）

整理すると、第Ⅰ章はプロフィールなのでそれはそれで良いとして、第Ⅲ章はサポートブックで、第Ⅱ章がサポートファイルということなので、分冊とすることも可能

だと思われます。受容ができていないのであれば、第Ⅱ章のみの利用。受容ができていれば、第Ⅱ章と第Ⅲ章も併せて利用するようなイメージです。

○ 神津委員

分冊としなくても、章ごとに使用すれば良いと思います。特にお子さんの特徴の部分は、その人がどんな人であるのかを知るとかかりとなることから、適切な支援が可能となるので、かなり重要だと思います。第Ⅰ章の「プロフィール」と、第Ⅲ章の「わたしのこと」はセットで考えると良いと思います。

○ 久保田委員

サポートファイルの部分である第Ⅱ章「相談の記録」の部分を後ろに移動させると、関係機関の記録を支援機関に見てもらえないのではないかという懸念や不安もあります。利用方法や書き方についての広報を、ホームページ上でしっかりやる必要はあると思います。

○ 事務局（鈴木補佐）

数年後の見直しありきで、まずはホームページへの掲載を前提として、一定の整理をしてほしいと思います。

○ 夏目委員

支援者側としては、過去と現在が知りたいです。ですので、久保田委員がおっしゃるような、第Ⅱ章部分をおざなりとするようなことはありません。ですので、神津委員がおっしゃる構成の変更については、現場としては問題ないと思います。サポートファイルの本旨を重要視するならばこのままの構成で良いと思いますが、親への負担を考慮した場合、むしろ第Ⅲ章部分を前にもってきたほうが、親にとっても使いやすいものになると思います。

○ 柿沼園長

気になる段階では、自由記述欄も含めてすべてを書かなければいけない訳ではないことが分かれば良い。書き方についてしっかり啓発するなど、利用しやすい工夫をしてあげれば良いのでは。そうすれば、保護者の負担感はないでしょう。

○ 杉田座長

それでは、支援機関にとっても保護者にとっても使いやすい構成は、第Ⅰ章、第Ⅲ章、第Ⅱ章の順番が良いでしょう。書き方や利用方法については、しっかりと分かるようにする。情報の共有化を徹底することが必要です。

事務局で、今日の意見を盛り込んだものを、再度各委員にお送りいただくような方法でお願いします。

それでは、最後に（３）その他ということで、皆さま、何か議題がございますでしょうか。

○ 事務局（鈴木課長補佐）

事務局から1点連絡がございます。本日の議事録についてでございますが、座長の杉田委員に内容をご確認いただき、公開することとしてよろしいでしょうか。

（拍手多数）

それではそのようにさせていただきます。杉田先生、よろしくお願いいたします。

○ 杉田座長

分かりました。それでは、協議会全体を通して、ほかに何かございますか。

○ 阿部委員

サポートファイルについては、受容を前提でいろいろと考えていました。受容していない人への配慮も必要だと、あらためて感じました。

私は、子どもが小学校2年生のときに千葉市に引っ越してきました。ですので、千葉市の幼児期の取り組みは良く分かりませんが、療育機関である大宮学園は、定員オーバーで利用できずに、待機の状況であることは聞いています。人口規模に対して、療育機関が少ないのが現状ではないでしょうか。私の場合は、たまたま幼児期に東京都で療育を受けることができたので、いまがあると思います。いろいろな期間を乗り越えて思うのは、自立のためには、幼児期の支援が特に必要で、その支援が、小学校、中学校、高校につながるんだと思います。幼児期での受容と療育、親への啓発が、学齢期以降のスムーズな療育につながっていきます。受容することが、子どもの幸せにつながるんだ、ということを伝えていくことに、自閉症協会としても力を入れていきたいと思います。

○ 杉田座長

ありがとうございます。ほかに何かありますか。

ないようですので、それでは、事務局にお返しします。

○ 事務局（岡本）

閉会